

「真剣に叱られる (松下幸之助)」

校長 桐野 和之

今回の学校だよりでは自分自身がよりよい生き方をするためのヒントについて書きます。これまで皆さんは、家庭や学校生活の中で、何回も叱られてきたことと思います。そして皆さんは叱られる経験を通して、物事の良い、悪いを判断する力や生き方を身に付けてきました。おそらく、これからも叱られることがあるかと思いますが、誰もが、叱られるよりも叱られないほうを好みがちです。これは人としての人情ですし、叱る側にしてみても、叱ることはあまり気持ちの良いものではありません。叱られる側にしても叱られないに越したことはありません。ここで叱られる意味について考えてみましょう。

パナソニックの創業者である松下幸之助さんは、叱られるということに対してとても参考になることを言われました。

松下さんは、尋常小学校を四年生で中退し、救済で丁稚奉公に出されました。今では信じられないことですが、昔はこのようなケースがありました。その後、松下さんは転職を重ね、18歳で関西商工学校夜間部に入学し、専門的な勉強を積み、24歳で松下電気器具製作所を創業し、そのご苦勞を重ねながら、パナソニックという日本を代表する企業にまで育てあげました。松下さんは苦勞を重ねるなかで、人としての生き方を学び、その経験のなかから今号の話題である



「真剣に叱られる」という考え方を導き出しました。松下さんは、叱られるより叱られないほうを好むのは人情だが、「人情と人情がからみ合って、まあまあのやむやにすぎ、叱りもしなければ叱られもしないということになったらどうなるか。神さまならいざ知らず、お互いに人間である。知らず知らずのうちに、もの見方考え方が甘くなりその弱さと、もろさが生まれてくることになる」と語っています。叱られることに関して、こうした考えを聞いて皆さんはどう思いますか。自分がこれまで叱られたことを振り返ってみて、どう感じるでしょうか。そして、松下さんはさらに、「私情にかられてのそれはいけないけれど、ものの道理(人としての生き方)について真剣に叱る。また、真剣に叱られるということは、人情を越えた人間としての一つの大事なつとめではあるまいか。



叱られてこそ人間の真の値打ちが出てくるのである。叱り、叱られることにもお互いに真剣でありたい」と続けています。

私もこれまで多くの場面で叱られてきました。また、教員として生徒を叱ってきました。叱るときは、その生徒に人としての生き方を本当に分かってもらいたいとの願いをもって、真剣に生徒に向き合ってきました。これまでの叱る・叱られる場面を振り返ってみると、この松下さんの言葉の意味が心に響いてきます。

本校の先生方も、皆さんに早く自立してほしいという願いをもって、愛情を込めて皆さんを叱っています。皆さんもこれまでの叱られた経験を振り返って、叱られたこと背景にある願いについて考えてみてください。また、これから叱られたときには、真剣に叱られるということを考え、これからの学校生活に生かしてください。そうすることで、しっかりした考え方や生き方ができるようになることを願っています。

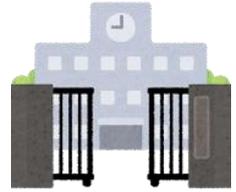
いじめへのメッセージ

貫井中学校／PTA実行委員会

本校PTA実行委員会の方々にご依頼し、いじめについて考えていただき、「いじめ防止標語」「いじめ防止メッセージ」を作成していただきました。ご紹介いたします。

1 「いじめ防止標語」

- ・いじめの火 消せる勇気と 思いやり
- ・絆の灯 ともして照らそう いじめの闇を
- ・勇気の輪 つなげて断ち切る いじめの連鎖
- ・見て見ぬふりは 加担と同じ 直接でなくても手助けを
- ・心の友に出会えたら 今のあなたは 変わるよ
- ・あなたの言葉 あなたの行動 聞かれています 見られています
- ・考えて その行動 自分で受けた時の気持
- ・助けて！と叫ぶ勇気を ふりしぼれ 聞かせてよ 心の痛みを キャッチしたい
- ・良く聞いて 泣いてる人の 心のさけび
- ・知らんふり あなたはされても いいですか
- ・嫌なこと 言った人は忘れても 言われた人は忘れない
- ・いじめはね やってしまったら 必ず君もやられます
- ・ちょっとまで 今のその言葉 みのがさない それいじめだよ
- ・悪口は けして言わぬ 心がけ
- ・一人じゃないよ 味方はいっぱいいる
- ・気付いてね 誰もがみんな 宝物
- ・大丈夫 あなたは大事な 子どもです
- ・まだ間に合う 勇気を出して 相談を



2 「いじめ防止メッセージ」

- ・いじめは些細なことから広がっていきます。その連鎖を断ち切るために「やめよう」と言える勇気を持ち、大切な仲間の輪を広げて行ってほしい。誰かを傷つけたら、必ず自分に返ってきます。少しの勇気と思いやりの心で、いじめはなくせると思います。
- ・昔の人はお天道様が見ているよ、と諭したそうです。お天道様でも、尊敬する人でも、神様でも、あなたの規範から外れていない行為か、誰に恥じることない行動か、考えてみましょう。
- ・心がさみしくないですか？ 何かが足りてないですか？ 強がって大きく見せてないですか？ 無理をしてがんばりすぎてないですか？ ひとりぼっちにならない為に、仲間がほしい為に誰かを傷つけているのなら、いつか自分がひとりぼっちになってしまう事に気づいてほしい。友だちに自分を強く見せる必要なんてないんだよ。大丈夫。人は間違えに気づいた時に変わるよ。強がっている嫌いな自分なら、今日から素直になって、笑顔になってみてね。本当はなりたかった好きな自分になれたら、自然にそんなあなたを大切に思ってくれる心の友に出逢えるはずだよ。人を傷つける自分よりも、人を好きになれる自分に変わろう。
- ・わかっていますよ。本当はあなたの心の中も苦しきでいっぱいだということ。出口の見つからない闇の中で不安と恐怖と戦いつつも、どうすることもできずに誰かを傷つけることで自分を保っていることも。大人たちは本気であなたを闇から救ってあげたいと思っています。ですから、どうかあなたも自分の抱えている事すべてを本気で大人に吐き出し、ぶつかってください。必ず光のさす出口へと導きます。その手を引いてあげますから、闇から抜け出し、そして明るい未来があるという現実をそのめで見

つめてください。

- なぜ? どうして?
- 人に対して嫌なことをすると、必ずいつか自分に返ってきます。「むかつくから」とか「うざい」とか言い、人を傷つける事は、自分自身が「むかつく人間」「うざい人間」であることを自覚した方がいいと思います。自分がされて嫌な事は、人に対してやってはいけない事です。良く自分の心と話し合ってください。
- 軽い気持ちだったとしても、その後に、いいことなんて、何もありません。自分がほんとうにしたいこと、なりたい自分が、どういうことかよく考えて。
- いじめてる時はみんな一緒だから楽しいのですね。きっとどんな事をしましたか? どんなひどい言葉を言いましたか? みんなで笑いながら友だちをいじめたのですね。それは倍になって君たちの人生の中でしっぺ返しをこうむります。全て自分に返ってきます。不思議なんですよ。逃げても逃げても、いじめた人には必ずしっぺ返しがついて回ります。あなたがいじめた人以上に、つらい思いするのです。そこで学ぶのです。いじめたことを反省するのです。君たち、いつかいじめられるのですよ。
- あなたは、一人では何もできない。人間はみんな、一人では生きていけません。誰かに助けられて生きているのです。あなたがいじているその子が、あなたの助けになってくれる人かもしれません。そのことを少し心に思ってみてください。
- いじめる側、いじめられる側も、話し合いが大事です。まずは、親と子どもの会話の心がけは必要です。いじめる子どもは親との会話が少ない事で孤立してしまいます。親も子どもから逃げずに話を聞いてあげることです。いじめをする子どもは親にも問題があります。
- 人を傷つけると自分も傷がつきます。その傷はずっと消えることのない傷になってしまいます。
- 大切な子供が人を苦しめていたら(親)は悲しむでしょう。自分が幸せになる事をしてください。人を大切にできない人は幸せにはなれません。
- ただ、からかっているつもりでも、からかわれている方はとても悲しい気持ちになっています。表面に出ていなくてもどれだけ傷ついているか分かりません。いじめた方はすぐに忘れてしまうけれど、いじめられた方は大人になってもずっとそのことを覚えていて、心に傷を抱えています。早く相手の気持ちに気づいてください。



オリンピック・パラリンピック教育授業

12月15日(金)の5,6校時に、北京パラリンピック女子ゴールボール日本代表の高田 朋枝さんを講師にお招きして「あすチャレ!スクール」ゴールボールプログラムとしての授業が、本校の体育館アリーナで行われました。

授業の開始前にスタッフの方々と一緒に授業準備しているところへあいさつに伺いました。アリーナへ行くとスタッフの方と共に私の前に近寄ってきてくれ、ニコニコしながら、あいさつをしてくださいました。そのごく普通に見えた行動や表情を見て、私はついうっかり名刺を差し出して、渡そうとしてしまったのです。隣に立っていたスタッフの方が高田さんの腕をつかんで名刺の方へ向けている様子を見て、「しまった!大変失礼なことをしてしまいました。」と思いました。

目が見えない、障がいがあるようなようす、姿には全く見えな



かったのです。和やかな笑顔で近寄ってきた姿に、目が見えている印象を受けました。自分で何てことをしてしまったのだろうと思っても後の祭りでしたが、でも健常な方と何の違いもないように見えたのは私だけだったのかなと今でも思っています。

ゴールボールそのものを子どもたちは経験しましたが、目が見えない状態でプレーすることにやはり不安を覚えたようでした。しかし、その競技を続けていくなかで、難しいという思いが、だんだんと楽しいに変わっていったことがもの凄く印象に残りました。スポーツの原点はやはり楽しむことかと思いました。また、模範のプレーも見せていただきましたが、その姿はまるで目が見えているような印象を受けました。カーブを見せてくださいましたが、まるで目が見えて、ねらいを定めてボールを転がしているように見えました。やはり、国を代表する選手は凄い。その技術のレベルの高さに本当に舌を巻きました。

高田さんのお話を聞いてさらに驚いたことは、5歳で目が見えなくなって以降、全く悲観的な生き方をしてこなかったことです。大学生になって一人暮らしをしても、何のためらいもなく生活をしていたこと。また、街中で他の人に手を貸してもらった後に、離れ際「がんばってください」と言われたことに、逆に違和感を覚え「見えなかったことが苦勞ではなかった」とおっしゃったことに爽やかな感想をもちました。同時に「障がいの捉え方そのものが違う。」そんなふうにも思いました。そのため、授業の目的の1つであった「障がいの有無に関係なく、全ての人が個々の可能性をもっていることに気づき、勇気をもって挑戦することの素晴らしさを学ぶ」について、お話を聞く中で強く共感することができました。

また、高田さんの明るく和やかに生きる生き方そのものに、人としての魅力を強く感じたのは私だけではないと思います。会場に居た多くの生徒や先生たちも似たような印象をもったはずです。ゴールボールを見たのは初めての経験でしたが、見ていて楽しかったです。東京大会のパラリンピックはぜひ地元で観戦したいものです。スポーツの楽しさをあらためて呼び起こしてくれた有意義な時間になりました。

部活動等の報告

バドミントン部

第11回バドミントン中学1年生大会：平成29年12月3日(日)

結果：1年 後藤・篠組 ベスト8

(1回戦21-12大泉中、2回戦21-12三原台中、3回戦8-21大泉中)

1年 Hさん・Tさん組、Kさん・Yさん組、Kさん・Sさん組 2回戦敗退

1年 Yさん・Nさん組、Nさん・Iさん組、Tさん・Yさん組、Kさん・Kさん組

1回戦敗退

東京都中学生冬季バドミントン大会練馬区選考会：平成30年1月6日(土)

結果：1年 Yさん 6位入賞 ブロック大会出場

(2-1大泉中、2-0開二中、0-2開一中、2-0大泉中、0-2大泉中)

2年 Kさん (2-1練東中、0-2旭丘中)

2年 Kさん (2-0石西中、0-2大泉中)

2年 Kさん (0-2大泉中)

卓球部

練馬区中学生総合体育大会 卓球新人大会(団体の部)：平成30年1月7日(日)

結果：男子団体戦 ベスト8

社会科

「税の作文」※全国約62万部の応募の中から、以下の2名が受賞しました。

練馬東納税貯蓄組合連合会会長優秀賞 3年 Iさん「税金があつての私の毎日」

練馬東納税貯蓄組合連合会会長賞 3年 Nさん「損をして得とれ」

「税の標語」※全国約42万部の応募の中から、以下の1名が受賞しました。

全国関税会総連合会入選 3年 A 「幸せをつなげる 架け橋 消費税」

